

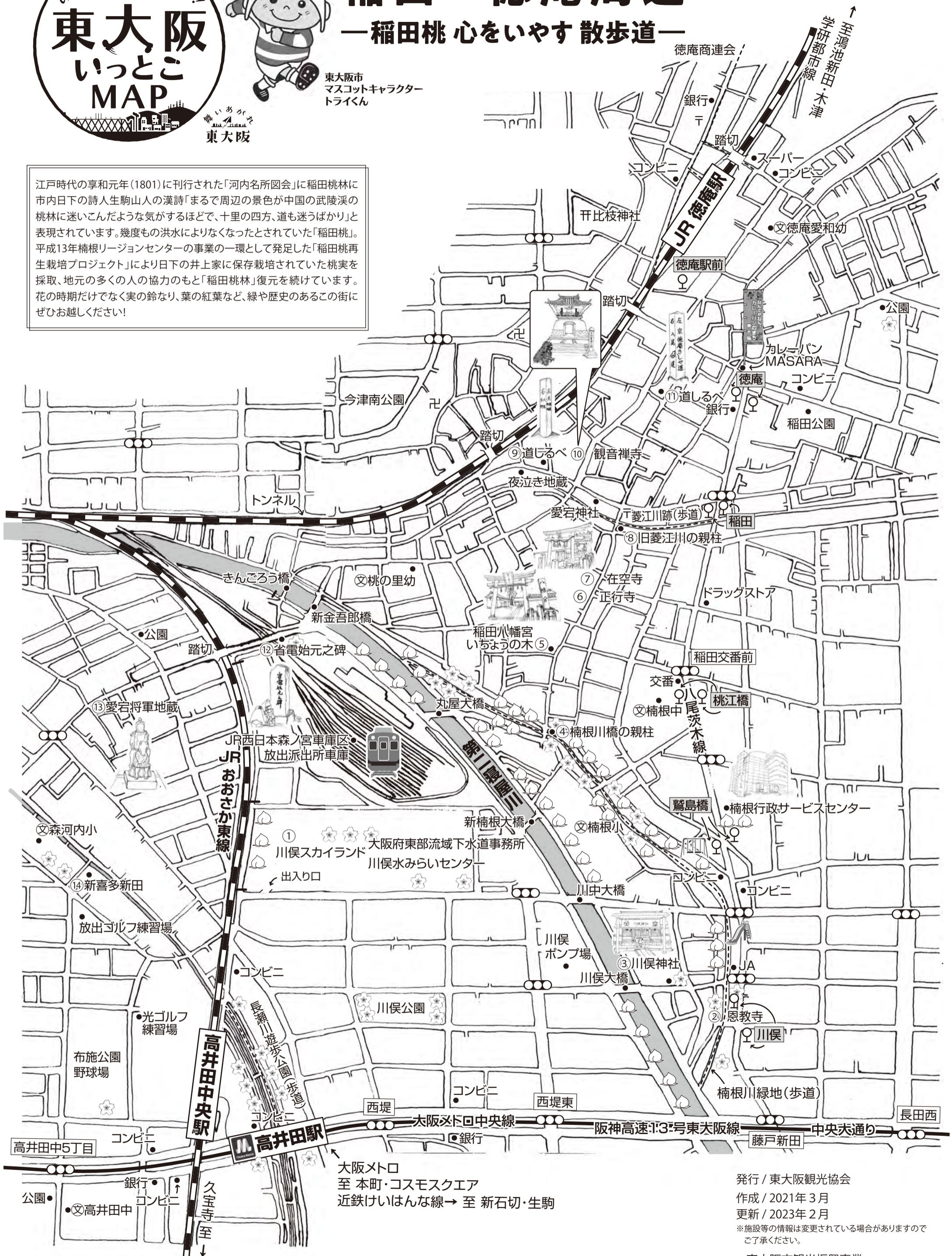


いな だ とく あん 稲田～徳庵周辺

— 稲田桃心をいやす散歩道 —

東大阪市
マスコットキャラクター
トライくん

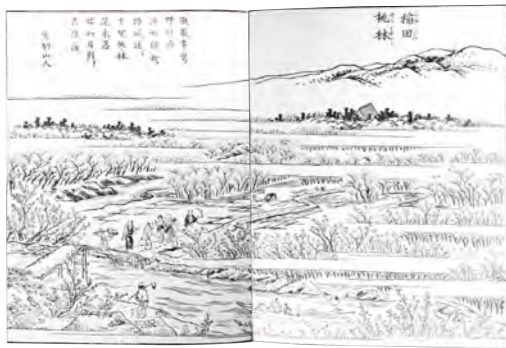
江戸時代の享和元年(1801)に刊行された「河内名所図会」に稲田桃林に市内日下の詩人生駒山人の漢詩「まるで周辺の景色が中国の武陵溪の桃林に迷いこんだような気がするほどで、十里の四方、道も迷うばかり」と表現されています。幾度もの洪水によりなくなったとされていた「稲田桃」。平成13年楠根リージョンセンターの事業の一環として発足した「稲田桃再生栽培プロジェクト」により日下の井上家に保存栽培されていた桃実を採取、地元の多くの人の協力のもと「稲田桃林」復元を続けています。花の時期だけでなく実の鈴なり、葉の紅葉など、緑や歴史のあるこの街にぜひお越しください!



発行 / 東大阪観光協会
 作成 / 2021年3月
 更新 / 2023年2月
 ※施設等の情報は変更されている場合がありますのでご了承ください。

■ 東大阪観光振興事業 ■

いなだ とくあん 稲田～徳庵周辺—稲田桃心をいやす散歩道—



稲田村 いなだむら

稲田村という名前は、室町時代初期の記録に「河内国若江郡稲田邑」という名が見え始めています。この頃の稲田村は現在より東へ約1kmの七軒家にあつて、寝屋川と長瀬川にはさまれていたために毎年増水に悩まされたので、水はけの良い西の現在地へ約400年前に村移りしたと記録に残っています。

『河内名所図会』享和元年(1801)

かわちめいしよずえ きょうわがねん

江戸時代には、川にはさまれた稲田周辺の低地は桃林が一面に広がり、名産“稲田桃”の栽培の産地として全国的に知られていました。江戸時代の享和元年(1801)に著わされた『河内名所図会』にも、桃林の中で川通りの舟や花見に興じる人々の様子が描かれています。

川俣村 かわまたむら

川俣は古くは若江郡川俣郷に属し、北方に広がっていた河内の入江に流れこむ複雑な川の流れからその地名が起ったと思われます。仁徳天皇の時代(5世紀)にはすでに「伽破摩多曳」と現れ、「姓氏録」には川俣公、「日本霊異記」には「若江郡川派里」として登場するなど、古代からいち早く開かれた所であったようです。



①川俣スカイランド・川俣水みらいセンター かわまたすかいらんど・かわまたみずみらいせんたー

屋上に芝生広場や多目的グラウンドの他、処理場からの水を利用した水辺の広場など7つの広場があります。遊具や砂場の他、芝生の上では寝ころがったり、お散歩などお楽しみいただけます。

②恩教寺 おんきょうじ

真宗大谷派(東)の寺院です。本尊は阿弥陀如来です。現在の本堂修復の際に「万延元年」と記された棟板が出てきました。万延元年(1860)に建立されたと思われます。山号は源川山といひます。

③川俣神社・椿の神木

かわまたじんじゃ・つばきのしんぼく
旧の楠根川の左岸堤防上に鎮座する延喜式にのせられている一社です。周辺に本拠地をもつ川俣氏が、水上交通、漁業をはじめとする生産活動を展開し、古くから江に近い開発拠点であったことがうかがえます。また、神社の境内にある椿の木は神木とされ、葉は熱や風邪の特効薬とされた伝えがあります。



④楠根川・橋の親柱 くすねがわ・はしのおやばしら

現在は楠根川緑地として整備されていますが、旧楠根川は八尾市中田付近から条里制の地割りに沿って、中世から農業用に掘られた人工河川だったようで、「まるはし」の親柱が公園の所に残っています。

⑤稲田八幡宮・いちょうの木 いなだはちまんぐう

本市の西端に位置する稲田は、古くには新開池へ合流していた旧菱江川の西岸に営まれた集落で「稲田村由来記」によれば、室町～江戸時代には、若江郡に属し、人家が18軒ばかりあつたこと、永享3年(1431)に古市郡にある誉田八幡宮より八幡神が勧請され、稲田八幡宮がまつられるようになったことが記されています。境内には樹齡約500年、樹高約35mもあるイチョウは市の文化財に指定されています。

⑥正行寺 しょうぎょうじ

真宗本願寺派(西)の寺院です。本尊は阿弥陀如来立像で、開基は文明年間(1469～87)と言われています。山号は恵日山です。

⑦存空寺 ぞんくうじ

真宗大谷派の寺院です。本尊は阿弥陀如来立像で、正保4年(1647)宣如上人のお墨付文によります。又、存空寺什物として親鸞聖人御絵寛文2年(1662)があります。山号は槐山といひます。



⑧旧菱江川の親柱 きゅうひしえのおやばしら

旧菱江川に架けられていた石橋の親柱が4本少し埋もれて残っています。北西の柱には「大和橋」と刻まれています。南東の柱には「仙人橋」と二つの橋の名を刻み、南西の柱には「蔓延庚申年(1860)十一月中旬成之」「石工嘉...」を、北東の柱には「里正 宮田 澤田」と二人の村役人の名を刻んでいます。明治以降に橋の修築が行われたことも考えられます。

⑨道しるべ みちしるべ

観音禅寺山門の西にあります。22.5×26cm角、高さ1.5mの上部を、丸めた幕末期の道しるべで、東面「す久大坂」、西面「左京徳庵野崎」、北面「右八尾平野」と刻んでいて、南面の「文久三癸亥(1863)正月吉日 橋本丁中建之」の銘から、稲田村の橋本町の人達が村をとる旅行者のために設置したことがわかります。

⑩観音禅寺 かのんぜんじ

曹洞宗の寺院で正観菩薩がご本尊です。寛文6年(1666)に播州三木城主鈴木三郎九郎重成と不三道者が協力して寺を再興したといわれます。薬師堂の薬師如来像は、聖徳太子の作と伝えられています。山号は圓通山と称し、桜上に銅鐘がかかっています。また、円覚殿とも称す河内唯一の達摩寺もあり、中に50～60cm位の中小の達摩が納められています。門前には「夜泣き地蔵」がまつられ、線香立てに「安政六己未年(1859)九月吉日」の銘があります。

⑪道しるべ みちしるべ

この道しるべは、高さ2.4m、37×30cm角あり、明治32年(1899)道路修繕発起人達によって建てられた駅への道しるべです。南面には「左 京徳庵きしゃ道」西面には「右 八尾(ひょうたん山)道」、北面には発起人として光野喜代松ら計17人の名前が刻まれています。

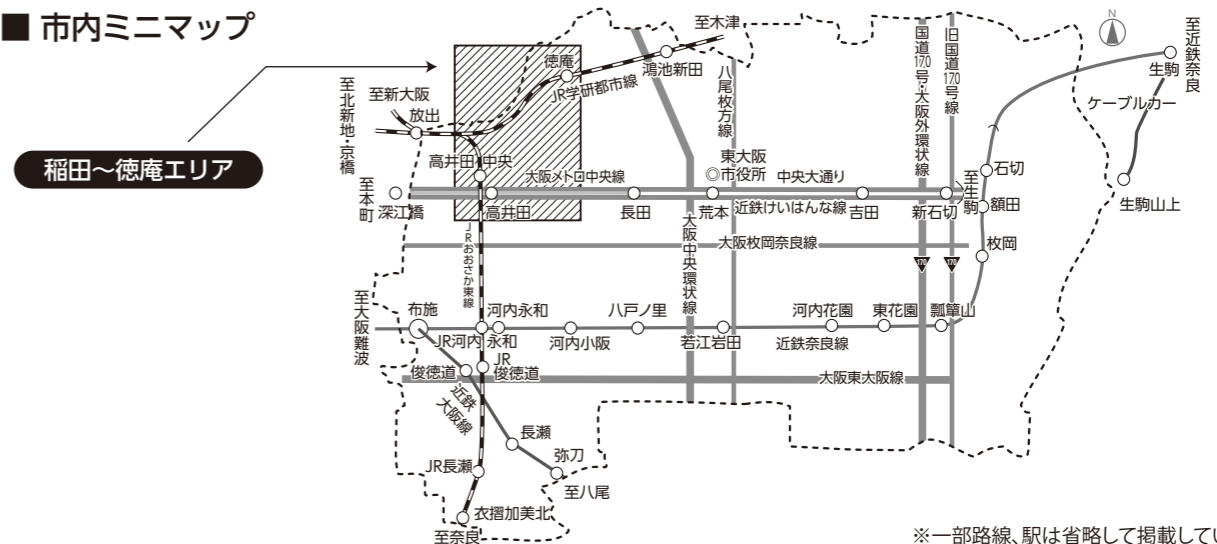
■ 稲田～徳庵へのアクセス



神戸、奈良からも約1時間で到着!



■ 市内ミニマップ



※一部路線、駅は省略して掲載しています。